



泥だらけの免許証

よしだ ゆみこ
【吉田 佑美子・岩手県】

採用試験の時、あなたはあの免許証を差し出して言いましたね。「震災で家が潰れ、やっと見つけた免許証です。泥だらけですみません」

平成23年5月の面接でした。「石巻で被災した学生が転校してきて、働く所を探しています。引き受けてもらえないでしょうか」と学校から依頼があったのです。緊張気味の彼は、風貌は現代っ子ですが、どこかおどおどして見えるひ弱な雰囲気でした。でも彼の眼差しは、真っすぐ前を見ており、差し出した准看護師の免許証は、洗って乾かしたのが一目で分かる泥の染み付いたしわだらけのものでした。

「何とか看護師になりたいので、頑張ります」「震災でご家族の方は、ご無事だったのですか？」「はい、家は天井まで津波に潰れましたが命は助かりました」「この免許証よく見つけ出したわね」「はい、早く働いて家族を安心させなくてはと必死でした」「あなた方に見つけてもらったこの免許証、再発行しないで残しましょう。きっと将来あなたが仕事を続ける上での大切な宝物になる気がしますよ」

3年の月日が過ぎ、もうすぐ卒業です。先日、彼とちょっと立ち話をしました。「卒業したら石巻に帰るのでしょうか」「良かったら、あと2年くらい働かせてもらえないでしょうか？」「あらっ、それはどうして？ みんなが待っているんじゃない？」「でも看護師になれば、看護師としての仕事を覚えて地元に戻りたいのです」「それはうれしいことです。勉強したいことがあったら何でも言ってね」

彼の評判はすこぶる良いのです。患者さん、同僚、先輩、後輩からも頼られ、今では当院の貴重な人財です。そんな彼があと2年も働いてくれるなんて、なんと嬉しい話でしょう。

分かっています、彼の本当の気持ち。きっと彼は、採用時の恩義を感じ、そのお礼を果たしたいと思っているのだと。彼を、泥だらけの免許証に恥じない立派な看護師に育てたいと思います。